**釣　心　記**

**“コラム”**

　**四万十川でもアユ大量死 ⁈**

　８月13日付けの『釣心記』で、高水温・熱中症による

アユの死を“ウソのような話”として紹介しましたが、

15日の「スポニチアネックス」は“ホントの話”として

四万十川のアユの大量死を伝えてくれています。

この記事によると「12日に国内観測史上最高の気温41

度を記録した高知県四万十市内を流れる日本三大清流の一

つ四万十川では、水温が上がり、水不足が深刻化し、漁業

関係者は頭を悩ませている」とのことです。

[ 四万十川のアユ釣り風景 ]

特に、深刻なのは名産のアユの漁獲量。漁協の担当者は「漁獲量減少は、13日に計測されたこの川ではめったに出ない32度の高水温、それに晴天続きで川の水量が少ないのが原因。 アユの適水温は20～24度。 30度以上になるとアユは生息できなくなります。 漁獲量は明らかに減っていて、大量死したのではないかと不安になっています」と語っている。

何はともあれ、この状況が長く続くと、今年後半のアユ釣りは勿論のこと、来年のアユ釣りの行方も心配になります。 最近、話題から遠のいている地球温暖化も含め、気温・水温上昇の原因を早急に究明し、地球規模での対策実行が必要だと思われます。

　**釣り人の 大アユかけて 2歩3歩　　　 隆釣**

[ 松岡 隆春　8/16 ]